

荒れていた田畠も、鋤と鎌とシャベルにモツコという道具だけでもみがえらせ、作物を育て食糧とした。田植えの時は、足に手首にヒル（蛭）が吸いつき、痛いの痒いの血はタラタラ流れ大騒ぎした。秋には、腰をかがめて一株ずつ鋸鎌で手刈り、束にしたもの腰をはせかけ、その手伝いもしていた。

学校から帰ると、朝見つけておいた松茸を私らに採りに行かせてくれた。裏山に行くと、生の柴が何本もあつて、はぐるどぐろと円のシロに松茸が生えていた。ナバ籠を持って帰ると、新聞紙をぬらした物に包んで、風呂焼きの燃える火の中へ埋めて焼いて食べさせてくれた。その時の良い匂いと味は、今も鮮明に覚えている。私の子供達にはそんな食べさせ方は出来もしないし、見せるとも採らせてやることも出来なかつた。茸の生えない時代になりましたから。

なにもかもが懐かしい。存命ならば、父百四歳、母百歳。せめて父母の好物だった、おはぎを作つて供えました。

今日の日まで元気でいらるのも、しっかりと念仏相続のしきをし、丈夫に育ててくれた父母のおかげと感謝している。

「父さん、母さん、ありがとうございました。何時も見守つてくれていてありがとうございました。」

今夜も、しづかに手をあわせている私です。(合掌)



目が覚めて
迎えることの出来た今朝のようごび
御仏と共に

今日、六月第三日曜日は「父の日」。父のことを、懐かしく思い出している。私は、父の仕事の関係で幼い頃を満州で過ごしている。
その地で、父は二度も召集を受け、戦地へ行つていた。昭和二十年の夏、戦局は激しくなり、まもなく敗戦。父の消息もつかめなくなつた。

母は、幼い私達を連れて、内地への引き揚げを決断し、命からがらでも姉弟四人を無事に父のふるさとへ連れ帰つてくれている。

数年後、シベリア抑留から父が帰つて来た。うれしかつた。けれど、戦闘帽に国防色の軍服 リュックサックの父は、別人のようで怖くて、母の背にかくれたのを覚えている。父の所有していた家は、戦争がひどくなつてから、それまで街で暮らしていた祖父母とおじの家族が疎開していて、一緒に住めなかつた。父は、自分名義の山を伐り開き、屋敷を作つて、何も手に入らない時代、建て替えをするという納屋の解体を手伝い、その材料を譲り受けて、新しい敷地に家を建てて私たちの住居としてくれた。

門信徒の仏縁

大谷 由紀子

(西条町田口)

今後の法要スケジュール

「夏の子ども会」

(善教寺本堂)

八月 二日(金) 午前十時半～午後三時

* 仏教婦人会主催行事

仏さまの話を聞き、本堂でゲームをします。

仏教婦人会員さんの手作りカレーを頂きます。

「盂蘭盆会納骨法要」

(善教寺本堂)

八月 九日(金) 昼席：午後一時半～

十日(土) 朝席：午前十時～

昼席：午後一時半～

講師 吉崎哲眞師(佐伯区湯来町西法寺)
*送迎マイクロバスを運行します。

「宗祖聖人月忌・

門信徒祥月命日法要

(善教寺本堂)

八月十六日(金) 午後一時半～

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「柏原盂蘭盆会法要」

(柏原説教堂)

八月二十一日(水) 昼席・夕席

二十二日(木) 朝席・昼席

講師 広幡康祐師(安浦町信楽寺)

「秋季彼岸会」

(善教寺本堂)

九月十四日(土) 朝席：午前十時～

昼席：午後一時半～

講師 海谷真之師(江田島市光源寺)
*送迎マイクロバスを運行します。

ご縁に感謝 謝

善教寺ホームページ『縁』<http://www.oteraj.or.jp/> メール zenkyo@oteraj.or.jp